

目的 ヒトや動物に薬理効果があるといわれるユリ科アロエ属アロエベラ(Aloe vera (L.)Burm. f.)について凍結乾燥ゲル中に存在する生理活性物質の分析はこれまでも行われてきたが、詳しい説明は十分に行われてきていない。本研究では、GC-MSによりこれら化合物の構造解析と同定を行い有効成分の説明に努めた。

方法 凍結乾燥したアロエベラゲル(87.5g)を種々の有機溶媒で抽出した後、今回はアセトン抽出試料(カラムクロマトで大まかに分画)をGC-MS装置(日本電子製DX30型)により測定した。得られた多数のマスマスペクトルは登録データソフト(Wiley/NBS製)で自動解析を行い、これ以外にリストにない化合物については近似の登録スペクトルでの開裂様式に基づき構造推定を行った。

結果 飽和炭素化合物としてn-アルカン類、イソアルカン類、アルキルシクロヘキサン類が同定され、この他にアルケン類、フェノール類、ナフタレン類、クロメン類、ルパン類など約60余種が同定された。